

第3節 中学校教育

第1項 教育機会

1. 現状と課題

(1) 生徒数

中学校教育は、中学校と盲学校、聾学校及び養護学校の中学部で行われている。このうち、盲学校、聾学校及び養護学校の中学部については、「第5節 養護教育」において取り上げることとし、以下では中学校の在学者についての状況を見る。

本県における中学校の生徒数は、過疎化の進行により逐年減少し、昭和41年度において149,398人であった生徒数が昭和51年度において100,396人となっている。

また、生徒数の減少状況を見ると、昭和42年度は昭和41年度より7,098人の減、昭和46年度は昭和45年度より3,398人の減、昭和51年度は昭和50年度より3,251人の減となっている（図2-3-1）。

これより、本県における生徒数の減少傾向は、緩慢ながら鈍化の状況にある。

一方、全国における生徒数の推移状況を見ると、昭和37年度の生徒数を最高とし、その後は小学校と同様減少を続け、昭和47年度まで減少し、昭和50年度まではほぼ横ばいとなっている（「我が国の教育水準」(昭50)）。

以上のこと及び生徒数の予測（福島県長期総合計画における人口フレームに基づき、総務課において推計する（昭51））から、本県における生徒数は、全国よりほぼ8年おくれ、昭和54年度頃からほぼ横ばいとなり、その後、次第に増加するものと想定される。

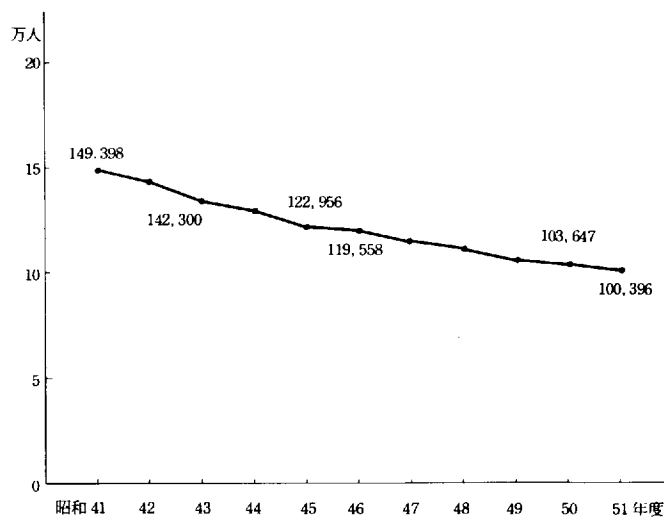
従って、今後は、県全体としての生徒数の減少状況が近い将来において解消されることを踏まえ、教育諸条件の整備を更に推進し、教育水準の向上に努める必要がある。

(2) 地域別生徒数

地域別生徒数の推移を昭和41年度から昭和51年度までにおいてみると、すべての地域において生徒数は逐年減少している（図2-3-2）。

また、地域別に生徒数の減少状況を昭和42年度、昭和46年度、昭和51年度における前年度生徒数に対する減少生徒数の割合の比較からみると、県北地域においては、生徒数の減少傾向が他の

図2-3-1 生徒数の推移



注：「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。